

## 脳卒中死亡率の低下には 55 歳未満での予防強化を

英国における脳卒中の死亡率、発生率および発症後 30 日以内の致死率の最近の傾向と、それらのリスク低下に影響を及ぼす因子について検討した。

英国の2つのデータベースを用い、2001年1月1日から2010年12月31日に脳卒中で入院または死亡した20歳以上の成人795,869例を対象に脳卒中の死亡率、発生率および致死率について分析を行った。その結果、10年間で脳卒中死亡率は55%、脳卒中発生率は20%、脳卒中後30日以内の致死率は40%低下した。対象者の性別は、男性45%、女性55%であり、平均年変化を性別により分析したところ、脳卒中死亡率は男性で-6.0%、女性で-6.1%、脳卒中発生率は男性が-1.3%、女性が-2.1%、致死率は男性が-4.7%、女性が-4.4%であった。死亡率と致死率は全年齢において10年間で低下したが、発生率は全年齢で低下はせず、高齢者においては低下したが、35～54歳では毎年2%上昇した。死亡率低下においては、71%（男性78%、女性66%）が致死率の低下に起因するもので、残りは脳卒中発生率の低下に起因していた。この2つの要因の寄与割合は、年齢層により異なり、55歳未満の若い人の死亡率低下は致死率が低下したことによるものであり、85歳以上の高齢者では致死率と発生率の低下が同等に寄与していた。

今回の結果から、英国において脳卒中死亡率が低下した要因は、脳卒中発生率の低下よりも脳卒中発症後30日以内の致死率の低下が寄与していた割合が高いことが明らかとなった。これは脳卒中後のケアが改善したことによるものであると思われる。とくに55歳未満の若者では、脳卒中発生後の致死率の低下のみが死亡率低下に寄与していた。一方で、35～54歳では脳卒中発生率が上昇しており、若い年齢層での脳卒中予防の強化が必要であることが示唆された。

出典: British Medical Journal. 2019 May 22; 365: I1778.